

各位へ

姫路文学学校準備室第三回御案内

日時・11月21日(月曜日)13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

姫路市本町68番地／姫路駅からみゆき通り商店街を北へ徒歩7分。国道2号線(東行一方通行)を渡り本町商店街の一本目の角を西に30メートル進む。内藤広告西隣「クワイエット・ホリデー」の2階。

※3回目は川柳作家の大西泰世氏による講義。

「詩歌なるものの出会いとしての句作、川柳の原点一句集『椿事』から始まる」

大西泰世氏のプロフィール

川柳作家。姫路市に生まれる。兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科を卒業。26歳より川柳を始める。1983年、第1句集『椿事』を発表する。

〈声だすとほどけてしまう紐がある〉〈火柱の中にわたしの駅がある〉〈すこしだけ椿の赤に近くなる〉など、鮮烈な表現で脚光を浴びる。

1988年、姫路市でスナック「文庫ヤ」を開業(のちに赤穂市、大阪新地移転)。その後、神戸山手女子短期大学の非常勤講師となり、「スナックのママが大学の講師に」と話題を呼んだ。そのかたわらカルチャースクールや関西学院大学、兵庫県立大学などで講師を務める。大西の川柳は詩的要素が強く、俳句でいう季語に相当する語を取り入れることも多い。『現代の俳句』(平井昭敏編)や『現代俳句ニューウェイブ』など、俳人と同列の扱いで収められているアンソロジーもあり、現代俳句協会の現代俳句データベースにも収録されているなど、俳句と川柳のボーダーラインに立つ作家とみなされている。第三句集『こいびとになってくださいますか』で、第1回中新田俳句大賞を受賞。本人はあくまで川柳の名にこだわり、「やはり私の句は「川柳」として読んでいただきたいのだ。」と語っている。俳誌「豈」「未定」同人を経る。

※著書

・第1句集『椿事』(砂子屋書房、1989年)

・第2句集『世紀末の小町』(砂子屋書房、1989年)〈なにほどの快樂(けらく)か大樹揺れやまず〉〈形而上の象はときどき水を飲む〉〈現身へほろりと溶ける沈丁花〉。

・『短歌 俳句 川柳 101年 1892～1992』(「新潮」臨時増刊、共著、新潮社、1993年)、この本は貴重な仕事。

・第三句集『こいびとになってくださいますか』(立風書房、1995年)〈身を反らすたびに  
あやめの咲きにけり〉〈わが死後の植物図鑑きつと雨〉〈屋根裏の曼珠沙華ならまっさ  
かり〉。

・選集『大西泰世句集』(砂子屋書房、1995年)

※出演番組

・かんさい土曜ほっとタイム(NHK ラジオ)

・テレビ de ぼやき川柳(NHK 大阪)

・関西発ラジオ深夜便(NHK ラジオ)

※参加には、自作の詩歌又は小説、エッセイを持参。10部程コピーして下さい。

持参できなくても合評会には参加し発言して下さい。

1部の講師には500円のカンパ、ワンドリンク発注が必要です。長時間でもあり菓子等  
の持込は可能。

自作の作品は当日に配布するので、詩は1~2篇。俳句・短歌・川柳は10句、10首  
程度。

小説、エッセイは1200字(原稿用紙3枚)程度。

1部講座は13:30より質疑応答含め1時間30分程度。休憩を挟んで17:00まで創作  
合評。

楽しくワイワイとやります。

◎予告・第4回◎

日時・1月23日(月曜日) 13時30分~17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

講師・季村敏夫(詩人)

主催・姫路文学学校準備室、書肆風羅堂

連絡・姫路市西今宿 3-1-9-702(書肆風羅堂)